

いわき農林事務所ニュース 2005年1月号

活動状況

○お米について楽しく学びました！ ～いわきの“おいしいごはん”料理教室～

12月4日、いわき市文化センターにおいていわきの“おいしいごはん”料理教室を開催しました。この料理教室は、次世代の食文化を担う小学生とその保護者に、ごはん食の健康性や米の消費拡大への理解を深めてもらうとともに、地産地消の推進を図ることを目的としており、いわき市三和町のエコファーマー米（ふくみらい）をはじめとした地元の農産物を使って行われました。

料理教室には、小学校低学年の児童とその保護者16組32人が参加し、午前は、「ふだん着のフランス料理Kitao」の北尾博水シェフの指導を受けながら、お米とほうれん草と貝のリゾットやひな鶏に詰めた米のロースト、にんじんと米のスープを親子で作りました。

午後には、保護者はいわきのお米や農産物に関する講習会で知識を深めてもらい、児童たちは、キビタンやキビママと一緒にお米に関するクイズに取り組むなど、お米について楽しく学びました。



みんなで楽しく試食しました！

○平成16年度第1回いわき地域農業経営セミナーを開催

平成16年12月7日、平成16年度第1回いわき地域農業経営セミナーが県いわき合同庁舎において開催され、管内の認定農業者等32名が参加しました。

今回は、改正消費税法により消費税課税対象者の販売金額が3000万円から1000万円に引き下げられ、課税対象者が増えたことに伴い普及協力員でもある木幡会計事務所の木幡仁一税理士を講師に迎え開催しました。

木幡先生からは、「改正消費税法について ～課税方法 原則と簡易。あなたはどちらがお得？～」をテーマに、法の改正点や実際に税額を計算する際の課税期間、課税方法の違いなどについて事例を交えて説明をいただきました。

また、参加者からは、課税方法の変更点、固定資産の売却の扱い等について活発な質問や意見が出されました。なお、今年度は、1月から3月の毎月、テーマを変えてセミナーを開催する予定です。



改正消費税の正しい知識を学びました。

○環境にやさしい米づくりを目指して！ ～平成16年度第2回食品産業・農業ニーズマッチング情報交流会～

12月9日、いわき市総合保健福祉センターにおいて、平成16年度第2回食品産業・農業ニーズマッチング情報交流会を開催しました。この交流会は、食品産業や消費者と生産者のニーズをマッチングさせ、地産地消を推進することを目的としております。

「今、消費者の求める農産物とは」と題する基調講演では、フードプロデューサーの小倉朋子さんが「おいしさ・ヘルシー志向・安全性など、消費者の求める農産物が多様化する中、生産者側からの情報提供、消費者側の食に関する教育、互いの交流等が、これからの食の提供に必要である。」と説明されました。

引き続き、JAみやぎ登米の千葉修米穀課長から、「環境保全米の販売戦略」と題し、環境にやさしい米作り

に大々的に取り組んでいる状況について紹介をいただきました。
また、環境にやさしい米づくりをいわきで実践している生産者の米を使ったご飯の試食や、㈱かねほんの代表取締役社長・鈴木淳夫氏をコーディネーターとするパネルディスカッションが行なわれ、流通業者、実需者、生産者の代表により、今後のいわきの米づくりの目指すべき方向について熱心な意見が交換され、参加者は環境にやさしい米づくりに理解を深めていました。



熱心に議論されたパネルディスカッション

○お正月料理を体験！ ～うつくしま農林水産ファンクラブ交流会～

12月16日、渡辺町公民館において、うつくしま農林水産ファンクラブ交流会を開催しました。

今回は、いわき地区生活研究グループが開催している「いわきの郷土食をつくる会」に、ファンクラブ員10名を含む32名が参加し、交流を深めました。

メニューは、お正月の伝統料理である「煮しめ」「豆腐の白あえ」「五色なます」「じねんじょの天ぷら」「伊達巻き」「ゆず寒天」でそのつくり方を体験して頂きました。また、エコファーマーが栽培したふくみらいを使用した「むかごご飯」も味わって頂きました。

参加者の皆さんは、はんぺんを使った伊達巻きやゆずの皮を器に使ったゆず寒天など、郷土食ならではのレシピや調理方法を熱心に学び、今回体験した料理をおせち料理に加えたいと話していました。

料理の後は、参加者全員で試食し、むかごご飯の塩加減や寒天を固めるポイント、お互いの得意なおせち料理の話題で盛り上がり、大変有意義な交流会となりました。

また、体験で使いたいわき市渡辺町特産の「じねんじょ」や「むかご」などの直売も行われ、大変好評を得ていました。

うつくしま農林水産ファンクラブ

福島県では、“新鮮、おいしい、安全・安心”な県産農林水産物をはじめ、古くから地域に伝わる伝統料理や次世代に伝えたい食文化を再発見することにより、地産地消の推進や「食」と「農」の距離を接近を図るとともに「ふるさと」ふくしまのすばらしさを実感し、その良さを広く周囲へPRしていただくボランティア組織です。



楽しく郷土料理を体験しました！



完成した郷土食

トピックス

○地域で里山林を整備 ～「明神里山」サクラ植樹祭～

田人町荷路夫地区の住民でつくる「明神里山実行会」主催の植樹祭が、11月28日、荷路夫字木和田地内の「明神里山」で開催されました。

実行会は、「明神里山」と名付けた明神山の周辺を地域の名所にしようと、県のうつくしま里山林再生モデル事業の指定を受け、ふもとの雑木林を整備しています。

これまで、広葉樹の抜き切り、ツル類やササなどの刈り払い、明神山に続く遊歩道の整備などを行っています。

今回の植樹は、財団法人日本さくらの会の「宝くじ桜」配布事業を活用して実施し、オオヤマザクラの若木200本を植栽するとともに、植栽記念碑を設置しました。

地元住民や田人一小荷路夫分校の児童、県や市の関係者などの参加者は、「元気に育って、美しい桜の花を咲かせてほしい」との思いを込めて、高さ2.5mほどの若木をていねいに植栽していました。

実行会では、「明神里山」が地域と都市住民との交流の場となるよう、きのこの栽培や湧き水の水汲み場の設置などの活動に、今後とも意欲的に取り組んでいく予定です。



「大きく育ってね！」との思いを込めて植樹

○鮮やかな花々で明るい新年を！ ～鉢花品評会～

平成16年11月30日から12月1日にかけて、第7回いわき市中央卸売市場花き部鉢花品評会が開催されました。

いわき市をはじめ、千葉県や長野県など全国から50名、計150点が出品され、シクラメンやポインセチア、シンビジウム等季節を代表する花々が揃いました。

今年は明るい花色が多く、クリスマス定番のポインセチアも赤色だけでなくレモンイエローやオレンジ、搾り等様々な色の品種が多数出品されました。

金賞3点、銀賞4点、銅賞6点が選ばれ、金賞の3点は、県知事賞が相馬郡小高町の根本園芸、いわき市長賞がいわき市平窪の平園芸、いわき市議会議長賞が相馬市の田中利明さんが受賞されました。

また、いわき市からは四倉町の岡田源一さんが銀賞、小川町の市川嘉雄さんが銅賞に入賞されました。12月2日には出品物の販売が行なわれ、年末の街を明るく彩りました。



鉢花の展示状況

◀ もどる

すすむ ▶

[[▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#)]